

- 1 審議会名 武石地域協議会
- 2 日 時 平成 22 年 7 月 22 日 午後 19 時 00 分から午後 21 時 00 分まで
- 3 会 場 武石地域自治センター 第 1 会議室
- 4 出席者 新井繁雄委員、上野正司委員、大沢春樹委員、柿畠祐子委員、川合康司委員、清住章雄委員、下村孝明委員、鈴木孝男委員、滝沢由美子委員、中嶋和夫委員、橋詰真由美委員、樋澤たえ子委員、松井幸夫委員、松代典之委員、森美由紀委員、(欠席 5 名) 竹内利通委員、小山洋江委員、清住洋子委員、柳沢裕子委員、北沢賢二委員、
- 5 市側出席者 広川地域自治センター長、伊藤地域振興課長、山口市民生活課長、牛山産業観光課長、桜井建設課長、掛川武石教育事務所長、児玉地域振興課長補佐
- 6 公開・非公開等の別 公開
- 7 傍聴者 0 人 記者 0 人
- 8 会議概要作成年月日 22 年 7 月 26 日 作成部局課名 武石地域自治センター 地域振興課

協 議 事 項 等

- 1 開会 (滝沢副会長)
- 2 会長あいさつ (清住会長)
- 3 センター長あいさつ (広川センター長)
- 4 報告事項
(1) 武石地域全域公園化構想検討会議について
(会長)自治会の委員 4 名が決まった、前回決めた地域協議会の 5 人と合わせて 9 人で検討いただくことになる。委員には農業関係者もいることから意見聴取は造園、林業関係者となる。来月から検討をいただくが宜しく願いたい。
- 5 協議事項
(1) 武石開発公社の運営について
【資料説明】
(事務局) 開発公社の経営内容や改善に向けての取り組みなどについて説明
【主な質疑】 (委員) 剰余金検討委員会の活動内容は
(会長) 委員を務めたので説明する。昨年 1 年をかけて公社にある剰余金の使途を検討してきた。結論は、市の基金に入れることで地域の振興を図る、ということ。公社は地域の就労の場として現在も大きな役割を果たしている。そのために剰余金を活用する。
(委員) 公社合併のメリットは
(産業観光課長) 合併することで、人件費や経費が同一基準になり、事務も統合により一元化される。スケールメリットが生じるということ。
—今後も継続して協議することで一同了承—
【協議内容】 各事業の職員数や経営状況、指定管理制度と利用料金制、現在の課題を説明、経営状況の厳しさを、赤字改善に向けての取り組みの成果と展望等、複数委員から質問があり、事務局が答弁した。雲溪荘や番所ヶ原スキー場などは、改善が図れなければ赤字が累積し、施設整備も必要なことから、近い将来に廃止か整備して存続かを定める必要があり、地域協議会で協議を深め、地域全体で方向性を検討する必要があるという認識で一致し、地域の重要課題として継続協議となった。
- (2) 地域振興基金(武石村持寄分基金)の概要について
【資料説明】 (事務局) 平成 20 年度から実施している武石持寄分基金活用事業の実績と、前期地域協議会で協議された活用案を説明

【主な質疑】

(委員)ジャスコが閉店して買い物に困っている人が多い。公社で代替店を開く等対応はできないものか。

(委員)かつて工場誘致のときは税の減免など優遇措置があった。市で代替店に補助ができないか。

(委員)お産をする人に補助をだすような制度ができないか。

【協議内容】

過去3年間で協議された基金活用案について、委員間で再検討するとともに自由討議がされた。過去に委員から提案や要望が出されたが、実現できなかった事業について、その理由を行政に再確認する意見が複数出され、各課長が答弁した（一般会計で実施すべき事業、市の一体感を損なう恐れがある事業、特定の個人や団体が対象となる事業など）非常に重要な課題であることから、今後も地域協議会の最重要課題として協議を重ね、今期の任期中に活用のめどを立てることを申し合わせた。

6 閉会（滝沢副会長）